

ますます簡易になる避難訓練

自衛隊による除染は、水なし、ブラシでタイヤをこするだけ



2016年8月27日 京都府あやべ球場での流水除染



2021年10月30日 小浜市総合運動場での水なし拭き取り除染

10月30日、美浜原発3号機で事故が起きたという想定で、福井県主催の防災訓練が行われました（若狭湾で震度6弱の地震が発生し、美浜3号の外部電源が喪失し、冷却ができなくなったとの想定）。29日は県庁等で図上訓練、30日が住民参加の避難訓練。感染症対策も訓練に入っていました。福井の皆さんと共に避難計画を案ずる関西連絡会のメンバーが訓練を視察しました。

◆実際に避難訓練に参加した住民はわずか350名ほど。約4,700名は屋内退避のみ

住民の参加は約5,000名ですが、自宅等での屋内退避が約4,700名でほとんどです。実際に避難訓練に参加したのは350名ほど。この内、スクリーニング・除染して避難先に移動したのは約200名にすぎません。小浜市と若狭町の住民60名弱は、スクリーニングと除染の訓練だけで、コロナ禍を理由に、兵庫県への避難は取りやめになりました。訓練は正午には終了しました。

◆ますます簡易になる訓練。避難住民等の安全を守ることはいできない

今回の訓練は、参加人数だけでなく、その内容がこれまで以上に簡易なものでした。自衛隊による車両除染は、水なしで、ブラシでタイヤを拭き取るだけでした。スクリーニング・除染を担当する職員はタイベックも着用していません。このような手抜き簡易訓練では、住民の汚染・被ばくの有無も分からず、検査する職員も被ばくすることになるでしょう。いいかげんな検査と除染によって、避難先にも汚染が持ち込まれることになってしまいます。住民に対して、原発事故を軽く見せようとするものです。視察できた範囲で、いくつかの特徴を紹介します。

- ① 安定ヨウ素剤の配布はドライブスルー方式で、問診といえるものはなし。かえって、事前配布を行うことに支障がないことを示す結果だった。この会場だけは職員はタイベックを着ていたが、屋外で若い女性職員が担当するなど、これまでと変わりはない。
- ② スクリーニング・除染会場では、誰もタイベックを着用せず。
- ③ 自衛隊による車両除染は、流水除染はなく、水なしで、タイヤ回りを拭き取るだけ。県から自衛隊に渡された除染用の備品は、市販のウエットタオルと洗車用ブラシ2本のみ。
- ④ 水なし除染について県職員に尋ねると「国が推奨している。放水で出る汚染水の処理等が大変なために」と、国の方針だという。国も県も、住民の安全を守るという姿勢はない。

- ⑤ 住民の「簡易検査」では、首回り（甲状腺あたり）の測定なし。
- ⑥ コロナ禍では避難所スペースが足りないとの想定で、避難先をおおい町名田庄体育館から高浜町中央体育館に変更した（美浜町住民約 20 名）。これは避難関西等のアンケートで明らかになり、福井の皆さんが県主催説明会等で問題にしたことによる。しかし、当初から避難先を増やしておけば済む話で、それができないために「緊急対応の訓練」などと言っている。名田庄体育館では、651 名の美浜町民を受け入れる計画になっている。実際の事故時に大勢の住民が避難するなかでは、「緊急対応」など不可能だ。

◆安定ヨウ素剤配布は、「問診」なしの簡易なドライブスルー方式



簡単なチラシを読み上げるだけで説明もなし
(職員の背中に書かれていた名前は消しています)

訓練会場は福井県若狭合同庁舎で、美浜原発から約 30km の地点です。放射性ヨウ素等が放出されている中を避難する途中で、安定ヨウ素剤をドライブスルー方式で配布するという訓練です。

9 人の職員がタイベックとマスクとフェイスシールドを着用し、車の窓越しに簡単な説明をして、安定ヨウ素剤に見立てたアメを渡していきます。小浜市、若狭町の職員で、被ばくリスクの高い若い女性も含まれていました。これはやめるべきと何度も国や町に申入れてきましたが、今回も変わりはありませんでした。

担当者は、チラシの 1 枚目を読み上げ、「これから配布する安定ヨウ素剤を速やかに服用してください。ただし①配布を希望しない方②ヨウ素アレルギーのある方には、配布しませんので、お申し出ください」等と言うだけです。チラシのもう 1 枚には、服用できない人等について約 10 項目の注意が書かれていましたが、説明や確認はありません。

これなら、事前配布することになんの問題もないことを示す訓練でした。

◆自衛隊による車両の簡易除染（小浜市総合運動場 美浜町住民 約 240 名が参加）

今回の訓練では、汚染箇所の設定が、タイヤに限られていたため、バケツとブラシを持った自衛官（鯖江駐屯地）が、汚染されたタイヤをブラシに水（空のバケツ）を付けながらこすり落とすというマニュアル通りの方法で除染を行っていました。これまで何回か訓練に参加して、高圧洗浄機の水による車両除染を見てきているので、とても異様に感じました。

前日、おおい町の担当課に、うみんぴあ大飯は水なし除染訓練で、実際の事故でも同様であると聞いていたため、水を使った除染は、小浜総合運動場で行うのではと見に行きましたが、実際は、この会場でも、国が推奨しているという事で、水なし除染を行っていました。因みに、うみんぴあ大飯では、タイヤをウエットタオルでふき取るという有効性に基だ疑問の訓練だったそうです。

車両除染の担当は、ほとんど自衛官でした。これまで自衛官は、他の職員が軽装であったとしても、任務に適した装備をし、ピリピリした緊張感がありましたが、今年は、マスクも布製の感染症対策用、訓練用の迷彩服を着て、白い布手袋の上に薄手の使い捨てゴム手袋を着用、とても



自衛隊の簡易除染の備品（県が準備）

放射性物質の除染を想定しているとは思えない装備でした。訓練に参加していた県の職員にも同様の印象を受けました。



住民の全身検査
首回り（甲状腺のあたり）は測定せず

訓練開始前に自衛官に話を聞きましたが、正直このような簡易な方法で除染できるのなら、自分達自衛官がする必要はないのではと、訓練想定に疑問を持っている様に感じました。

水なし除染を国が推奨している理由に、除染した水の回収やその汚染水の扱い、除染の際に、職員が汚染水を浴びることなどがあるようです。確かに高压洗浄機での洗浄は、自衛官は汚染水を浴びることになりますが、以前は全面マスクで完全防備の装備をしたうえで、車の上部（バスであっても）もきちんと除染していました。

一方、水なし除染の今回は、バスや車両台数が少なかったためか、汚染箇所を確定するための「車両指定箇所検査」、特に「車両確認検査」に時間をかけているように感じました。また、汚染箇所のブラシやウエットタオルでの除染は、本気で効果をあげるとすれば、相当時間がかかります。確認の測定後、除染が不十分であれば更なる除染が必要になります。このような車両除染は、1台2台では可能でも、数百台数千台の場合、本当に可能なのでしょうか。

また車両上部の検査や除染は実施しないため、汚染された車両は、そのまま避難所の駐車場に向かう事となり、受け入れ先の駐車場（多くは、学校の校庭等）が汚染される懸念があります。

効果もない除染をして避難先に向かう事は、受け入れ側としては、到底許されない事なのではないでしょうか。視察に来ていた美浜町の議員も、大切な視点と同感して



美浜町住民の避難先 おおい町名田庄体育館 約90のテントでいっぱい
いました。おおい町は、高浜原発や大飯原発が事故の場合は、避難する側となります。双方の訓練が、避難先への更なる配慮につながってほしいものです。

【感想】今回は、美浜原発再稼働を前に避難関西の皆さんが、県内外の避難先自治体に対して行った、「感染症対策下での避難所についてのアンケート」で、多くの自治体が、避難所の設置に不安があると回答をした事、さらに、県や内閣府・規制庁・関電による住民説明会で、避難所不足について、県民が多くの疑問の声を挙げたことが大きく影響していたと思います。

避難所が足りない場合は、いつでも融通がつけられる体制をとれると、県民に知らせたかったのでしょうか。また、初参加に近い嶺北の訓練では、要支援者や、ベトナム・ブラジル等の外国人の避難訓練も実施されました。視察した人からは、言葉の壁など課題があったと聞いています。ごく僅かの参加者で、予め決められたスケジュールをこなしているだけのこのような避難訓練で、事故が生じた場合、本当に対処できるのでしょうか？

原発銀座に暮らし、老朽原発までも稼働し始めて、事故への不安は増すばかりです。少しでも住民や職員の安全を確保できるように、課題と真摯に向き合い改善して行ってほしいものです。

訓練の最後に、知事が壇上で2050年カーボンニュートラル実現には、原発は欠かせないと述べていました。その都合の洗脳からの脱却が重要な一歩となるはずで。 (福井m)